

H27 年度 PT 教育計画

1. 運動器系勉強会

I. 目的

- 経験年数 5 年以下の PT の基礎講習と位置付け、運動器の解剖学的理解をベースに、より効率的・効果的な運動器疾患への介入方法を学習する。

II. 講師

- 浅田啓嗣氏（理学療法士・鈴鹿医療科学大学専任講師・医学博士・奈良県立医科大学博士研究員・世界整形徒手療法士連盟国際会員）に部外講師として依頼

III. 開催頻度・日時・謝礼等

- 頻度：月 1 回
- 所要時間：16：45～・90 分程度

IV. 講義内容

- 筋・骨格系の触診

V. その他

- 経験年数 5 年以下の職員の参加は業務とする。

2. ケース・スタディー

I. 目的

- 自らの理学療法を発表という形にまとめることで、後方視的検討を加える
- 介入のアイデアを公表することでリハサービスの共有を行う。
- 第三者の視点から治療の方向性や具体的方法の教授を受ける。
- 介入の理論的背景を説明することで、自らの考えをまとめる。

II. 実施頻度・時間

- 第 1・3 水曜・17:15～120 分程度

III. 講師

- 各 PT の輪番制

IV. その他

- 業務時間外の設定だが、業務扱いとしている。

3. ランチタイムセミナー

I. 目的

- 時短や家庭の事情などで学習機会の少ない PT のスキルアップとして月 2 回実施

II. 開催日時

- 頻度：第 2・4 水曜日

- 所要時間：12：05～45分程度

III. 講義内容

- PT所有のビデオ教材の視聴を通じて、理学療法の現状を知る
 - ◇ 5月：「片麻痺の運動療法」①吉尾正春・「片麻痺の運動療法②」吉尾正春
 - ◇ 6月：「片麻痺の運動療法③吉尾正春」・「歩行1」石田利江
 - ◇ 7月：「歩行2」石田利江・「脳性麻痺児の治療」紀伊昌弘
- 以下、随時テーマを決定

IV. その他

- 時短等で学習機会の少ないPTのスキルアップとして実施
- 部屋PT・野口PTが準備等を担当

4. 評価法講習会

V. 目的

- 部内の臨床評価の指標を統一し、スタッフ間の症例に対する共通理解を促す

VI. 開催頻度

- H27度内5回程度

VII. 講義内容

- Modified Ashworth scale
- Functional Balance Scale
- Functional Reach Test
- Trunk Control Test
- Stroke Impairment Assessment Set
- Timed Up & Go Test
- Maximum Walking Speed
- 6-Minute Walking Distance(GMD)
- Physiological Cost Index

VIII. その他

- 基本的に全員参加で業務として開催する。

5. 小児PT勉強会

I. 目的

- 発達障害・脳性麻痺・先天性疾患児等の当センターの利用児に対する治療的介入に必要な知識の相互理解を深める。

II. 実施頻度・時間

- 1回/2月・17:15～60分程度

III. 講師

- 小児領域各 PT の輪番制

IV. 講義内容

- 各担当講師の自由選択のテーマに基づき決定する

V. その他

- 基本的には業務時間外の活動とし、受講者への超勤の支給は行わない

6. 小児ランチセミナー

I. 目的

- 障害児への介入に必要な定型発達の内容を学習する

II. 実施頻度・時間

- 第3水曜・12:05~12:50

III. 内容

- 各領域（運動・感覚・知的・言語など）の定型発達の概要をビデオ教材を通じて学習する

IV. その他

- 基本的には業務時間外の活動とし、受講者への超勤の支給は行わない

7. 英文抄読会

I. 目的

- リハビリテーション・神経生理学・発達領域・運動器疾患等、当センターの利用者への治療的介入に必要な最新の知見を海外の文献を抄読することで網羅する。

II. 実施頻度・時間

- 週一回・7:30~60分程度

III. 内容

- 組織横断的にP・O・STの希望者から構成。
- テーマを絞り、2~3名程度のチームを編成。
- 発表は輪番制とし、各テーマ1~2回の発表を行う。

IV. その他

基本的には業務時間外の活動とし、受講者への超勤の支給は行わない

8. 重症者への対応力強化

I. 呼吸・循環リスク管理：部内講師で全員参加の講習会を今年度一回開催

II. シーティング：奈良県理学療法士会主催のシーティングセミナーをセンターで年2回継続開催

III. 摂食・嚥下：松下STを講師に摂食・嚥下に対するPTの役割を学ぶ。全員参加で年2回開催。

9. 臨床指導体制

I. 目的

- セラピストの経験年数による格差や産休等のブランクがある者に対する配慮を行う事で、可能な限り提供技術の均一化を目指す。

II. 臨床指導体制

主にリーダーを各領域に分け、若手PTの症例に関する直接的指導（治療場面への介入）や間接的指導（アドバイス・相談）等を行う。

- 中枢：伊藤
- 小児：栗本・伊藤
- 整形疾患：梅本・荒木
- 脊損：部屋・佐藤
- 装具：梅本・柳澤・荒木・太田
- 切断：柳澤・太田
- HAL：柳澤・高田

III. 外部講師による指導体制

- 月一回、鈴鹿医療科学大学准教授：浅田啓嗣氏を療育研究会費より雇用し、臨床指導を受ける。

10. 出張計画

I. 介護講座講師養成

- トランスファー講習会：宮口PT

II. 整形要員育成

- 整形外科領域対応強化：梅本PT・荒木PT・高田PT

III. キャリアアッププランに基づいた出張計画

IV. 長期出張

- ボバース脳性麻痺8週コース：伊藤PT